


 前会長から
 

任期を振り返って



生出 勝宣*
Katsunobu OIDE*

3年にわたり加速器学会長を務めさせていただきましたが、その間も学会は様々な面で前進することができたと思います。その中には年会発表の会員限定化、年会での研究発表重視、リニアック技術研究会との完全統合、加速器ハンドブック編纂の着手などがありました。加速器学会もいよいよ一人前の学会として確立したのではないのでしょうか。年会組織委員・実行委員・各委員会委員・評議員・幹事、そして全会員と事務局の皆様にあらためて感謝申し上げます。

退任する者が何かを申し上げるような立場ではありませんが、今回は紙面があるということですので、勝手なことを書きます。今後の課題として個人的に思うのは、一つは大学における加速器教育の充実です。もちろん研究機関において院生を受け入れることは必要ですが、やはり各大学できちんと加速器の講座が確立していなければ、若い世代を系統的に育成することは難しいと思います。ただ、大型の装置が必要な場合は研究機関との連携をはかるべきことはいうまでもありません。学会の今後の取り組みに期待します。

もう一つは外国の加速器学会との交流です。ただし、交流のための交流では意味がなく、IPACなどの国際学会もかなり充実していますので、それ以上に何ができるかは考えなければなりません。しかし、事実かどうかはわかりませんが、若い世代が外国に出ることに消極的だとも言われており、そのような状況は克服されるべきだと思います（もちろん「英語化」をもって「国際化」とするような安易な動きには反対です）。

あと細かいことですが、年会における総会のあり方で、年会の貴重な発表時間を総会のために削ってしまうのが妥当かどうか、考えてほしいと思います。

加速器と加速器科学は相当の資源を必要とするものですが、それに見合う結果を学問・産業はもちろん、社会全体に還元できるポテンシャルを備えていると信じています。私たちは今後も加速器の持つあらゆる可能性を引き出し発展させなければなりません。加速器学会の役割は決して少なくなることはないと思います。学会の一層の発展を祈ります。

* KEK 加速器研究施設